

# 米に関するマンスリーレポート (令和7年1月号)



うちの郷土料理  
次世代に伝えたい大切な味

島根県 うずめ飯

出典:農林水産省「うちの郷土料理」  
詳細情報を裏面で紹介

「米に関するマンスリーレポート（マンレポ）」とは

⇒ 米に関する価格や需給の動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表しています。需要に応じた生産・円滑な米取引に役立てていただくことを目的としています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬公表。公表日の2営業日前までに入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあり得ます。

データはどう読み解けばいいの？

そんなときは、「ここが分からない！マンレポ」をチェック！

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo\\_kaisetu.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html)

# うちの郷土料理

次世代に伝えたい大切な味

## 島根県

### うずめ飯（うずめめし）

#### 主な伝承地域

石見地方（浜田市、益田市匹見町、津和野町など）

#### 主な使用食材

わさび、タイ、せり、季節の野菜（人参、ごぼう、しいたけ、里芋、豆腐や厚揚げ、鶏肉、かまぼこ）など

#### 歴史・由来・関連行事

一見、出汁をかけてわさびをそえたお茶漬けのように見えるが、ごはんの下には小さく刻んだタイや野菜が隠れている。この食べ方の起源についてはさまざまな説が残っている。たとえば、質素儉約を強いられた江戸時代に贅沢しているのを悟られないため、具材が粗末で他人に見られるのが恥ずかしかったため、などが挙げられている。提供するときや食べるときは伏し目がちにする、といった習わしも伝わっている。山口県にも同様の料理があり、仏教信仰にともない伝承されたともいわれており、はじめは動物性の食材は使っていなかったとする見方もある。

昭和14年（1939年）には、宮内庁の全国郷土料理調査において日本の代表的な郷土料理として、岐阜県の「さよりめし」、東京都深川の「深川めし」、埼玉県小川町の「忠七めし」、大阪府難波地方の「かやくめし」とともに、「うずめ飯」が「日本五大名飯」のひとつに選定された。

#### 食習の機会や時季

寒い冬に暖をとるための晩ごはんや、地域の氏神を参拝する「春神楽」という正月行事のおもてなし料理として客に振る舞われた。現在は、ご当地グルメとして観光施設などで1年を通して楽しめる。

#### 飲食方法

鍋で野菜を炒め、あぶったタイの出汁と水を加えて、すまし汁よりもすこし濃いめの醤油味で煮こむ。野菜が柔らかくなるまで煮あがった具をどんぶりに盛り、おろしわさびを敷いたら上からごはんを乗せて食べる。

食べるときは、鍋の出汁をかけてお茶漬け風にして食べる。この料理はわさびが決め手になっており、水がきれいな山間で栽培された香り高いわさびを使うのが良しとされる。津和野町では、わさびを特産品として栽培しており、名物の「うずめ飯」にも使われている。津和野町のわさびは、甘みが強く外国人の舌にも合うという。

あっさりとした素朴な味わいのごはんに、わさびが良いアクセントを加えてくれる。食べ進めていくうちにごはんから具材が出てきて、彩りが増していく。どんな具材が入っているのか楽しむのも「うずめ飯」の醍醐味である。

#### 材料（4人前）

・米	1.5合	・里芋	8個
・ごぼう	100g	・人参	60g
・しいたけ	4枚	・鶏肉	32g
・厚揚げ	1枚	・だし汁	600cc
・みりん	小さじ2	・醤油	小さじ2
・片栗粉	少々	・わさび	適宜

#### 作り方

- 1 里芋、厚揚げは乱切り、しいたけは薄切りにする。鶏肉は1cm角に切る。
- 2 ごぼう、人参はさがきにし1と一緒に出汁で煮る。野菜に火が通ったら、みりん、醤油で味付けし、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- 3 ごはんを盛り、熱々のうちに2を汁椀に入れ、その上にごはんを盛ってわさびをのせる。

レシピ提供元名：島根県食生活改善推進協議会  
※レシピは地域・家庭によって違いがあります。

# 目次（令和7年1月号）

## 特集

1 令和7年度予算概算決定の概要について(水田活用関係)

特集-1

## 1 米の民間在庫情報

各産地の米の民間在庫数量は、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）の在庫量と年間玄米仕入数量4,000トン以上の販売段階（米卸等の販売業者の在庫量）を対象に調査し、その合計（出荷段階+販売段階）の数値も合わせて公表しています。

集荷数量が概ね確定する1月以降の在庫数量は、販売に伴って減少していくので、その変化を見ることにより、販売状況を読み取ることができます。

### 1 民間在庫の推移

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/i/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 全国段階の民間在庫の推移(うるち米)(速報)

在庫-1

Excel

(2) 産地別民間在庫の状況(速報)

在庫-5

Excel

(3) 令和5・6年産の産地別民間在庫の推移(うるち米)(速報)

在庫-6

Excel

## 2 米の価格情報

### 相対(あいたい)取引価格

米については、全農等の出荷業者と卸売業者等との間で、年間を通じて「相対取引」が行われています。

このため、農林水産省では、年間の玄米仕入量5,000トン以上の全国出荷団体等を対象に、指標となる各産地の上位2～3銘柄(令和6年産米:118産地品種銘柄)について、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格・数量を毎月調査し、米の取引価格の代表となる指標の一つとして公表しています。

### 1 相対取引価格・数量

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/i/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 年産別の相対取引価格(速報)

価格-1

(2) 相対取引価格・数量(令和6年産米、産地品種銘柄別、令和6年12月分)(速報)

価格-3

Excel

(3) 相対取引価格(月別・年産平均価格)(令和5・6年産米、産地品種銘柄別)(速報)

価格-5

Excel

### 2 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和6年12月分)

米穀安定供給確保支援機構HP

<https://www.komenet.jp/>

価格-7

## 3 米の契約・販売情報

産地別事前契約数量は、米の播種が始まる前に、契約書や確認書等によりあらかじめ取引されることが決定している数量で、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）からの報告を産地別に取りまとめたものです。例えば、仕入（集荷）計画数量に占める事前契約数量の比率が高い産地では、取引数量の多くを播種前に契約し、需要に応じた生産に向けた取組が進められていることがうかがえます。

### 1 事前契約(播種前契約)の取組状況

(1) 近年の事前契約(播種前契約)数量の推移

契約-1

(2) 令和5・6年産米の産地別事前契約(播種前契約)の取組状況(速報)

契約-2

Excel

### 2 令和6年産米の産地別契約・販売状況

(累計、うるち米、令和6年11月末現在)(速報)

契約-3

Excel

### 3 令和6年産備蓄米の政府買入入札結果

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/i/seisan/svorvu/kaiire/index.html>

契約-6

### 4 令和6年産の水田における作付状況(令和6年9月15日時点)

(1) 主食用米及び戦略作物等の作付状況

契約-7

(2) 令和6年産の水田における都道府県別の作付状況

契約-8

## 4 消費の動向

### 1 米の消費動向(米穀機構による調査)

米穀安定供給確保支援機構HP <https://www.komenet.jp/>

消費-1

### 2 購入数量・支出金額の推移(家計調査)

総務省統計局HP <https://www.stat.go.jp/data/index.html>

消費-4

### 3 消費者物価指数の推移

消費-6

### 4 小売物価統計の推移

消費-7

### 5 米穀販売事業者における販売数量及び販売価格の動向(速報)

消費-8

### 6 小売価格・販売数量等の推移(POSデータ)

消費-9

## 5 輸出入の動向

### 1 コメ・コメ加工品の輸出実績

#### (1) コメ・コメ加工品の輸出実績の推移

輸出入-1

#### (2) 商業用の米の輸出数量及び金額の推移

輸出入-2

#### (3) 2024年上半期のコメの輸出実績の主な増加要因

輸出入-3

#### (4) 米菓の輸出数量及び金額の推移

輸出入-4

#### (5) 日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移

輸出入-5

#### (6) 包装米飯(パックご飯)等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-6

#### (7) 米粉の輸出数量及び金額の推移

輸出入-7

#### (8) 米粉麺等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-8

### 2 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

輸出入-9

### 3 MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

輸出入-11

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/i/seisan/boueki/nyusatu/index.html>

### 4 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-12

### 5 SBS輸入米の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-13

### 6 CPTPP・国別枠の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-14

## 6 主食用米以外の情報

### 1 加工用米及び新規需要米等の生産状況

#### (1) 加工用米の生産量

主食外-1

#### (2) 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移

主食外-1

#### (3) 令和6年産 都道府県別の生産状況

主食外-2

#### (4) 加工用米及び新規需要米における多収性品種

主食外-3

#### (5) 新規需要米における米粉用向け専用品種

主食外-3

### 2 米加工品の状況

#### (1) 主な米加工品の生産状況

主食外-4

#### (2) 令和3米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況(推計)

主食外-5

#### (3) 加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移

主食外-6

### 3 酒造好適米の需給状況

#### (1) 日本酒の出荷状況

主食外-7

#### (2) 日本酒原料米の使用状況

主食外-7

#### (3) 酒造好適米の生産量

主食外-8

#### (4) 酒造好適米の需要量

主食外-8

「米に関するマンスリーレポート」では、米に関する価格や需給の動向に係るデータ・情報をより多くの方に、かつ、より有効に活用していただけるよう、情報の整理方法、提供方法等を見直しました。  
また、当省ホームページでの公表に際しては、本編・資料編に加え、カテゴリ別にも整理して掲載するとともに一部データ資料については、エクセルによる提供も開始しましたので、ぜひご活用ください。

## 令和7年度予算概算決定の概要について（水田活用関係）

### （1）水田活用の直接支払交付金等

【令和7年度予算概算決定額 287,000（301,500）百万円】

#### <対策のポイント>

食料自給率・自給力の向上に資する**麦、大豆、米粉用米等の戦略作物の本作化**とともに、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組、畑地化による高収益作物等の定着**等を支援します。

#### <政策目標>

- 麦・大豆等の作付面積を拡大（麦30.7万ha、大豆17万ha、飼料用米9.7万ha [令和12年度まで]）
- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 飼料用米、米粉用米の生産を拡大（飼料用米：70万t、米粉用米：13万t [令和12年度まで]）

#### <事業の内容>

##### 1. 戦略作物助成

水田を活用して、**麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米**を生産する農業者を支援します。

##### 2. 産地交付金

「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色を活かした**魅力的な産地づくり**に向けた取組を支援します。

##### 3. 都道府県連携型助成

都道府県が**転換作物を生産する農業者を独自に支援**する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額（上限：0.5万円/10a）で**国が追加的に支援**します。

##### 4. 畑地化促進助成

水田を畑地化し、**高収益作物やその他の畑作物の定着**等を図る取組等を支援します。

##### 5. コメ新市場開拓等促進事業 11,000百万円

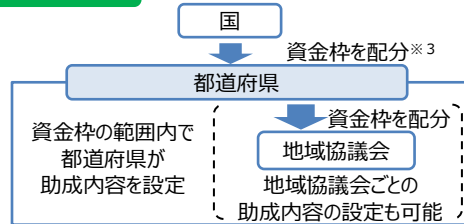
産地と実需者との連携の下、**新市場開拓用米等の低コスト生産等の取組**を行う農業者を支援します。\*7

#### <事業イメージ>

##### 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a*1
WCS用稲	8万円/10a
加工用米	2万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円~10.5万円/10a*2

##### 産地交付金



- 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分

取組内容	配分単価
そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作のみ）	2万円/10a
新市場開拓用米の複数年契約*4 （3年以上の新規契約を対象に令和6年度に配分）	1万円/10a

##### 畑地化促進助成

- ① 畑地化支援\*5：10.5万円/10a
- ② 定着促進支援\*5（①とセット）：2万円（3万円\*6）/10a×5年間  
または10万円（15万円\*6）/10a（一括）
- ③ 産地づくり体制構築等支援
- ④ 子実用とうもろこし支援（1万円/10a）

##### <交付対象水田>

- ・ たん水設備（畦畔等）や用水路等を有しない農地は交付対象外
- ・ 5年間で一度も水張り（水稲作付）が行われない農地は令和9年度以降は交付対象水田としない
- ・ 水張りは、水稲作付けにより確認することを基本とする。ただし、①漏水管理を1か月以上行い、②連作障害による収量低下が発生していない場合は、水張りを行ったものとみなす。

\*1：多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a

\*2：飼料用米の一般品種について、令和7年度については標準単価7.0万円/10a（5.5~8.5万円/10a）、令和8年度において標準単価6.5万円/10a（5.5~7.5万円/10a）とする。

\*3：作付転換の実績や計画等に基づき配分

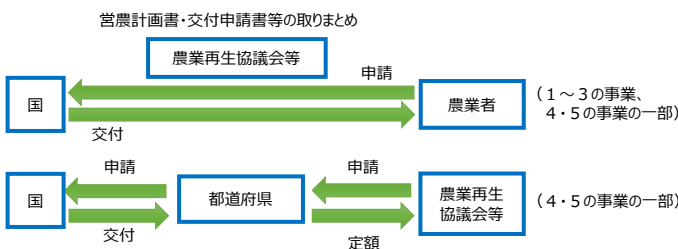
\*4：コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象

\*5：対象作物は、畑作物（麦、大豆、飼料作物（牧草等）、子実用とうもろこし、そば等）及び高収益作物（野菜、果樹、花き等）

\*6：加工・業務用野菜等の場合

\*7：予算の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定

#### <事業の流れ>



## (2) コメ新市場開拓等促進事業

【令和7年度予算概算決定額 11,000 (11,000) 百万円】

### <対策のポイント>

需要拡大が期待される作物を生産する農業へと転換するため、**実需者との結び付きの下で、新市場開拓用米、加工用米、米粉用米（パン・めん用の専用品種）の低コスト生産等に取り組む生産者を支援**します。

### <事業目標>

- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 米粉用米の生産を拡大（米粉用米13万ha〔令和12年度まで〕）

### <事業の内容>

#### 実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の取組支援 11,000百万円

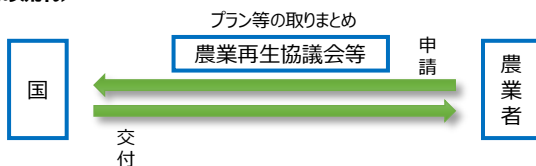
産地・実需協働プランに参画する生産者が、実需者ニーズに対応するための**低コスト生産等の技術導入を行う場合に、取組面積に応じて支援**します。

- ① **対象作物**：令和7年産の新市場開拓用米、加工用米、米粉用米（パン・めん用の専用品種）
- ② **交付単価**：新市場開拓用米 4万円/10a  
加工用米 3万円/10a  
米粉用米（パン・めん用の専用品種）9万円/10a
- ③ **採択基準**：取組面積等の評価基準（ポイント）に基づき、地域協議会単位で、**予算の範囲内で採択**

#### <留意事項>

- ※1 令和7年産の基幹作が対象です。
- ※2 農業者等が実需者と販売契約を締結する又はその計画を有していることが必要です。
- ※3 本支援の対象となった面積は、令和7年度水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成（加工用米、米粉用米）及び都道府県に対する産地交付金の取組に応じた追加配分（新市場開拓用米）の対象面積から除きます。
- ※4 予算額のうち、30百万円を農業再生協議会等の事務費として計上しています。

#### <事業の流れ>



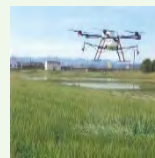
### <事業イメージ>

#### 【産地・実需協働プラン】

- ✓ 産地と実需者が連携し、新市場開拓用米、加工用米、米粉用米について、需要拡大のために必要な生産対策や需要の創出・拡大に係る取組内容、目標等を盛り込んだ計画



#### 実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の技術導入



【例】スマート農業機器の活用



直播栽培



土壌診断に基づく施肥

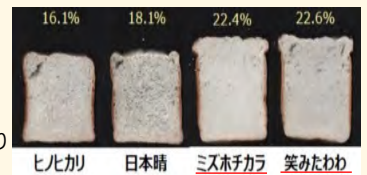
#### 米粉用米（パン・めん用の専用品種）の例

##### （パン用の専用品種）

- ・ミスホチカラ
- ・笑みたわわ 等

##### （めん用の専用品種）

- ・亜細亜(あじあ)のかおり
- ・ふくこのこ 等



# (3) 小麦・大豆の国産化の推進

【令和7年度予算概算決定額 35 (50) 百万円】  
 (令和6年度補正予算額 5,008百万円)

〔関連事業：共同利用施設の整備支援等 19,952百万円の内数〕  
 令和6年度補正予算 51,000百万円の内数

## <対策のポイント>

産地と実需が連携して行う**小麦・大豆の国産化を推進**するため、ブロックローテーションや営農技術・機械の導入等による**生産性向上**や**増産**を支援するとともに、国産小麦・大豆の安定供給に向けた**ストックセンターの整備**\*や民間主体の一定期間の**保管**、**新たな流通モデルづくり**、更なる利用拡大に向けた**新商品開発**等を支援します。

※関連事業で支援

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

- 小麦生産量の増加 (76万t→108万t)
- 大麦・はだか麦生産量の増加 (17万t→23万t)
- 大豆生産量の増加 (21万t→34万t)

## <事業の内容>

**国産小麦・大豆供給力強化総合対策 35 (50) 百万円**  
 【令和6年度補正予算】5,008百万円

- ① **生産対策 (小麦・大豆生産技術向上事業)**  
 小麦・大豆の増産を目指す産地に対し、**作付けの団地化、ブロックローテーション、営農技術・農業機械の導入**等を支援します。
- ② **流通対策**  
 ア **小麦・大豆供給円滑化推進事業**  
 国産小麦・大豆を一定期間保管することで安定供給体制を図る取組を支援します。  
 イ **新たな小麦流通モデルづくり事業**  
 小麦の流通構造の構築に向けた**新たな流通モデルづくり**を支援します。
- ③ **消費対策 (小麦・大豆利用拡大事業)**  
 国産小麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発**等を支援します。

### (関連事業)

**強い農業づくり総合支援交付金 11,952百万円の内数**  
**新基本計画実装・農業構造転換支援事業**

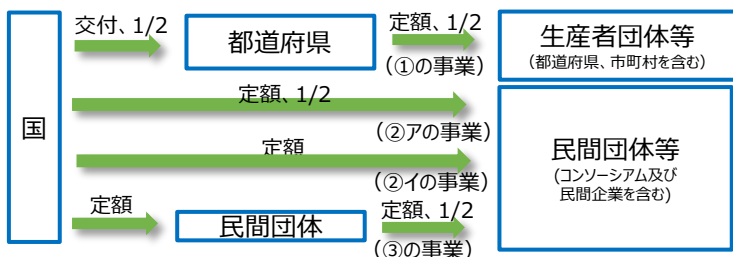
**8,000百万円の内数**

【令和6年度補正予算】40,000百万円の内数

### 産地生産基盤パワーアップ事業

【令和6年度補正予算】11,000百万円の内数

産地と実需が連携して国産小麦・大豆の取扱数量を増加させる取組を推進するため、増産に資する**乾燥調製施設の導入**、不作時にも安定供給するための**ストックセンターの整備**、国産小麦・大豆の利用拡大に向けた**食品加工施設の整備**や**再編集約・合理化**等を支援します。



## <事業イメージ>

### 1. 生産対策



営農技術の導入 (定額)



農業機械の導入 (1/2以内)



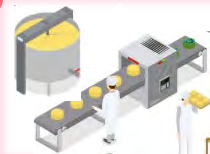
乾燥調製施設の整備\* (1/2以内)

### 2. 流通対策



- ・ストックセンターの整備\* (1/2以内)
- ・一定期間の保管 (定額、1/2以内)

### 3. 消費対策



- ・新商品の開発 (定額、1/2以内)
- ・加工設備・施設の導入\* (1/2以内)

※関連事業で支援

**小麦・大豆の国産化を一層推進**

※本事業は申請内容を踏まえて審査し、予算の範囲内で補助対象者が決定される補助事業です。

# 1 米の民間在庫情報

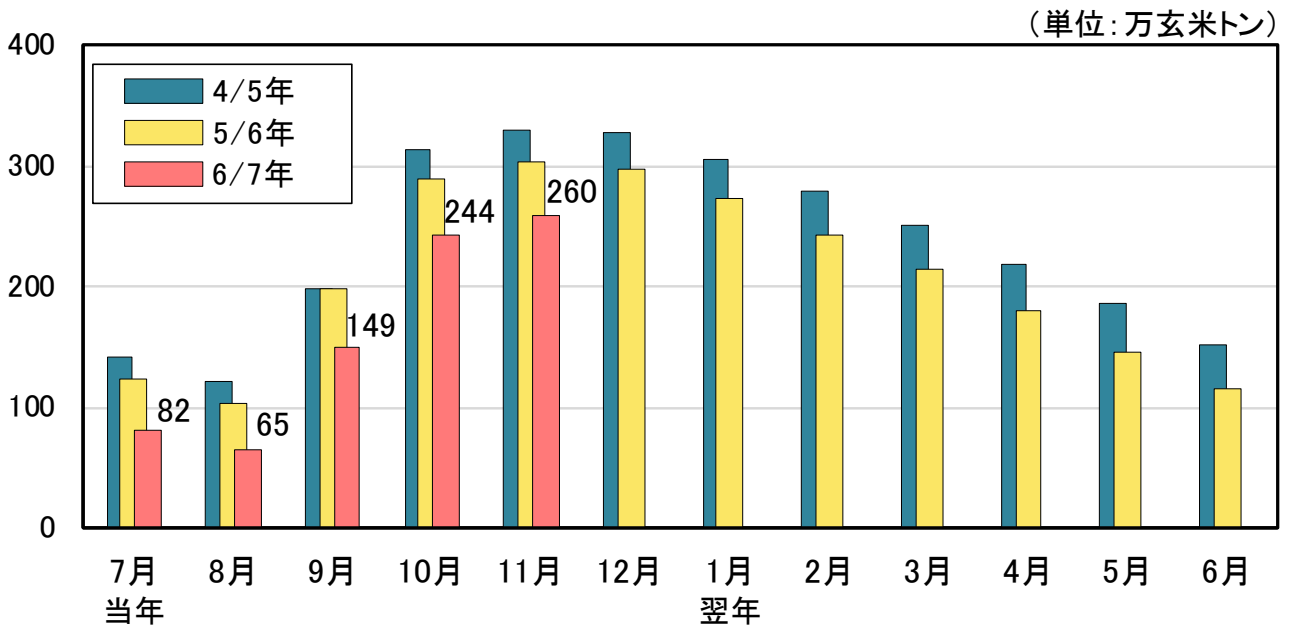
## 1 民間在庫の推移

### (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

民間在庫の累年データについては、農林水産省ホームページの「農産」の分野別分類「米(稲)・麦・大豆」、品目別分類「米の相対取引価格・数量、契約・販売状況、民間在庫の推移等」から御覧いただけます。  
【 <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html> 】

- 令和6年11月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、対前年同月差▲44万トンの260万トンとなっている。また、流通段階別でみると出荷段階で対前年同月差▲49万トンの201万トン、販売段階で+5万トンの59万トンとなっている。

※ 出荷・販売段階別の在庫量は、「在庫-3、4」を参照。

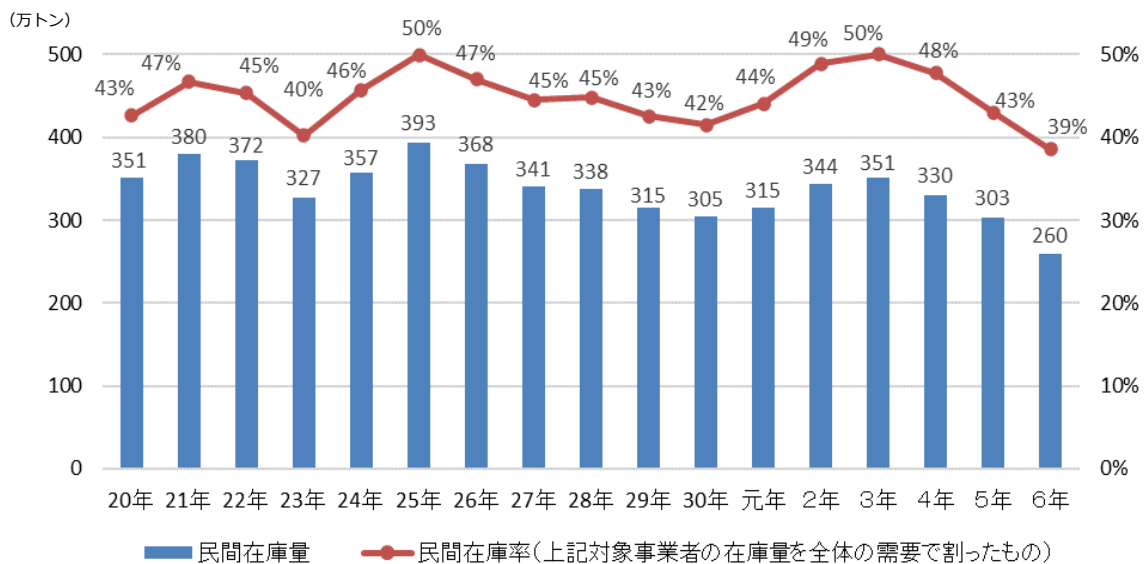


## 【令和6年11月末民間在庫量のポイント】

- 毎月公表している民間在庫量は、①500トン以上の集荷業者、②4,000トン以上の卸売業者が対象。およそ民間の流通在庫全体の75%をカバー(下記参考参照)。
- 令和6年11月末の民間在庫量は、11月末在庫としては近年では最も低い水準の260万トン。
- これについては、令和6年産の生産量(12月10日公表)が679万トンと前年産より18万トン多い中で、出荷段階で対前年差▲49万トン、販売段階で同+5万トンとなっていることを踏まえれば、報告対象となっている集荷業者の集荷が前年に比べ減少していることが主な要因と考えられる。

※ 在庫率は上記対象事業者の在庫量を全体の需要で割ったもの。

### 11月末民間在庫量・在庫率



※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

### ○ 出荷・販売段階別の民間在庫量

	5年11月末	6年11月末
出荷段階	249	201
対前年差	▲28	▲49
販売段階	54	59
対前年差	2	5
合計	303	260
対前年差	▲26	▲44

※出荷段階は玄米仕入数量が500トン以上の集荷業者等  
販売段階は玄米仕入数量が4,000トン以上の卸売業者等

### ○ 集荷業者の集荷数量

	集荷数量	前年比
6年11月末	191.9	92%
5年11月末	209.3	94%

※集荷数量は販売数量が5,000トン以上の集荷業者等

### (参考) 毎月公表している民間在庫量の調査対象の範囲

	出荷段階	販売段階	生産段階
	年間取扱 500トン以上	年間取扱 4,000トン以上	
うるち米	<p>【毎月調査ベース】</p> <p>6月末在庫 115万トン → 11月末在庫 260万トン (対前年▲44万トン)</p> <p>6月末 84万トン ↓ 11月末 201万トン (対前年▲49万トン)</p> <p>6月末 31万トン ↓ 11月末 59万トン (対前年+5万トン)</p>		
もち米			

【米の基本指針ベース】  
153万トン  
(※6月末のみ調査)

# 【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)】

## 【出荷＋販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
元年産米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
2年産米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162
1年古米(元年産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
5年産米	1	14	131	232	254	260	245	221	195	165	133	105
1年古米(4年産)	106	78	56	46	36	27	21	15	13	10	7	5
6/7年	82	65	149	244	260							
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44							
6年産米	1	13	112	214	234							
1年古米(5年産)	74	47	31	23	18							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～7年6月である。  
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30年産米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/2年	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109
対前年差	▲2	▲8	+8	+2	+5	+13	+9	+4	+1	+7	+11	+8
元年産米	0	7	99	222	246	254	238	214	181	155	136	108
1年古米(30年産)	73	47	28	14	9	6	4	3	2	2	1	1
2/3年	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132
対前年差	+10	+15	+23	+27	+27	+22	+26	+27	+33	+29	+24	+23
2年産米	0	9	108	236	263	268	258	237	211	182	158	129
1年古米(元年産)	82	60	42	28	20	14	10	7	5	4	3	3
3/4年	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139
対前年差	+22	+20	+27	+12	+13	+12	+10	+11	+9	+10	+7	+7
3年産米	0	8	115	227	255	261	249	231	206	179	154	126
1年古米(2年産)	103	80	61	47	40	33	28	24	19	16	14	13
4/5年	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
対前年差	+10	+8	▲12	▲15	▲21	▲20	▲20	▲20	▲22	▲20	▲20	▲18
4年産米	0	9	97	208	231	239	228	210	185	160	136	110
1年古米(3年産)	103	78	58	44	36	29	24	19	14	11	9	7
5/6年	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
5年産米	0	10	113	200	220	225	212	190	163	134	108	81
1年古米(4年産)	86	61	42	30	24	17	13	10	6	4	3	2
6/7年	58	44	113	187	201							
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲48	▲49							
6年産米	0	9	90	173	190							
1年古米(5年産)	55	34	21	12	8							

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	30
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	▲1
30年産米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1年古米(29年産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/2年	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45
対前年差	±0	▲1	+2	+3	+4	+4	+4	+4	+5	+4	+5	+14
元年産米	0	3	16	32	37	40	38	36	40	38	33	38
1年古米(30年産)	22	18	15	20	15	10	8	6	5	4	3	2
2/3年	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41
対前年差	+10	+7	+6	+3	+2	+1	+1	+1	▲2	▲2	▲3	▲4
2年産米	0	3	15	30	34	36	33	32	34	33	27	33
1年古米(元年産)	30	24	19	23	20	16	13	10	9	7	6	4
3/4年	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32
対前年差	▲3	▲2	▲3	▲5	▲7	▲5	▲6	▲4	▲3	▲2	▲2	▲8
3年産米	0	3	14	26	30	32	29	28	30	30	25	24
1年古米(2年産)	25	20	16	20	16	14	11	9	9	7	5	4
4/5年	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	+1	+1	+2	+2	+1	±0
4年産米	0	3	15	28	32	34	31	31	32	31	26	24
1年古米(3年産)	20	17	13	15	13	11	8	7	8	7	5	4
5/6年	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
5年産米	0	4	18	32	34	35	32	31	32	31	26	24
1年古米(4年産)	20	17	14	16	12	10	8	6	6	6	4	3
6/7年	25	21	36	57	59							
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5							
6年産米	0	4	23	41	44							
1年古米(5年産)	19	13	9	11	9							

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

## (2) 産地別民間在庫の状況（速報）

	5年	5年	6年	対前年	対前年	6年	対前月差	対前年	対前年
	10月	11月	10月	同月差	同月比	11月		同月差	同月比
	①	②	③	④=③-①	⑤=③/①	⑥	⑦=⑥-③	⑧=⑥-②	⑨=⑥/②
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)
北海道	259.1	284.2	287.0	+ 27.8	+ 10.7%	299.0	12.0	+ 14.8	+ 5.2%
青森	138.6	147.0	124.5	▲ 14.1	▲ 10.2%	130.5	6.1	▲ 16.5	▲ 11.2%
岩手	109.9	123.0	98.9	▲ 11.1	▲ 10.1%	114.5	15.6	▲ 8.5	▲ 6.9%
宮城	172.3	163.8	128.6	▲ 43.7	▲ 25.4%	136.4	7.8	▲ 27.4	▲ 16.7%
秋田	229.7	230.4	206.4	▲ 23.4	▲ 10.2%	220.5	14.1	▲ 9.9	▲ 4.3%
山形	171.5	181.2	152.7	▲ 18.8	▲ 10.9%	161.7	9.0	▲ 19.6	▲ 10.8%
福島	176.7	180.2	168.2	▲ 8.5	▲ 4.8%	176.8	8.5	▲ 3.4	▲ 1.9%
茨城	136.1	134.7	111.9	▲ 24.2	▲ 17.8%	105.1	▲ 6.8	▲ 29.6	▲ 22.0%
栃木	149.3	153.1	120.1	▲ 29.2	▲ 19.5%	131.9	11.8	▲ 21.2	▲ 13.8%
群馬	6.5	15.1	2.3	▲ 4.1	▲ 63.8%	11.2	8.9	▲ 3.9	▲ 25.7%
埼玉	27.3	34.3	14.8	▲ 12.5	▲ 45.9%	20.1	5.3	▲ 14.3	▲ 41.5%
千葉	79.0	71.8	63.7	▲ 15.2	▲ 19.3%	59.0	▲ 4.8	▲ 12.8	▲ 17.8%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	0.0	+ 0.0	-
神奈川	2.9	2.7	1.8	▲ 1.1	▲ 39.4%	1.3	▲ 0.5	▲ 1.4	▲ 51.2%
山梨	4.5	4.4	3.7	▲ 0.9	▲ 19.0%	3.6	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 17.3%
長野	70.2	79.2	58.3	▲ 11.9	▲ 17.0%	65.1	6.8	▲ 14.1	▲ 17.8%
静岡	22.3	22.0	17.0	▲ 5.3	▲ 23.8%	16.3	▲ 0.8	▲ 5.8	▲ 26.2%
新潟	296.5	298.4	252.0	▲ 44.5	▲ 15.0%	246.6	▲ 5.4	▲ 51.8	▲ 17.4%
富山	96.0	94.6	78.5	▲ 17.5	▲ 18.2%	80.5	2.0	▲ 14.1	▲ 14.9%
石川	78.3	76.1	66.3	▲ 12.0	▲ 15.3%	59.2	▲ 7.1	▲ 16.9	▲ 22.2%
福井	57.8	51.3	50.1	▲ 7.7	▲ 13.3%	46.7	▲ 3.4	▲ 4.6	▲ 9.0%
岐阜	21.5	29.3	12.7	▲ 8.8	▲ 40.8%	21.5	8.8	▲ 7.8	▲ 26.5%
愛知	24.5	32.3	18.7	▲ 5.7	▲ 23.4%	24.7	6.0	▲ 7.6	▲ 23.5%
三重	42.5	39.1	28.9	▲ 13.6	▲ 31.9%	26.7	▲ 2.2	▲ 12.3	▲ 31.6%
滋賀	56.1	55.5	42.9	▲ 13.2	▲ 23.5%	44.1	1.2	▲ 11.5	▲ 20.7%
京都	10.9	11.0	7.9	▲ 3.0	▲ 27.7%	7.7	▲ 0.2	▲ 3.3	▲ 30.1%
大阪	0.7	0.8	0.2	▲ 0.5	▲ 69.8%	0.4	0.2	▲ 0.4	▲ 49.4%
兵庫	37.7	46.6	26.5	▲ 11.2	▲ 29.6%	32.5	6.0	▲ 14.0	▲ 30.2%
奈良	9.5	11.7	5.1	▲ 4.4	▲ 46.5%	6.8	1.7	▲ 4.9	▲ 41.7%
和歌山	2.3	2.2	1.1	▲ 1.2	▲ 53.1%	1.0	▲ 0.1	▲ 1.3	▲ 57.5%
鳥取	21.6	21.3	18.9	▲ 2.7	▲ 12.3%	20.4	1.5	▲ 0.9	▲ 4.3%
島根	25.7	24.1	19.8	▲ 5.9	▲ 22.9%	18.8	▲ 1.1	▲ 5.3	▲ 22.1%
岡山	27.7	36.9	24.1	▲ 3.7	▲ 13.2%	31.7	7.6	▲ 5.3	▲ 14.2%
広島	49.1	47.9	32.2	▲ 17.0	▲ 34.5%	30.8	▲ 1.3	▲ 17.1	▲ 35.7%
山口	35.0	36.3	23.9	▲ 11.1	▲ 31.8%	24.2	0.3	▲ 12.0	▲ 33.2%
徳島	10.3	9.2	7.0	▲ 3.4	▲ 32.7%	6.1	▲ 0.8	▲ 3.1	▲ 33.6%
香川	12.1	17.8	7.9	▲ 4.2	▲ 35.0%	13.4	5.5	▲ 4.4	▲ 24.7%
愛媛	15.2	16.5	7.8	▲ 7.4	▲ 48.7%	9.0	1.1	▲ 7.5	▲ 45.6%
高知	9.9	9.1	6.0	▲ 3.8	▲ 38.8%	5.5	▲ 0.6	▲ 3.6	▲ 39.7%
福岡	45.5	60.1	23.7	▲ 21.8	▲ 48.0%	36.5	12.9	▲ 23.6	▲ 39.2%
佐賀	26.5	29.0	18.2	▲ 8.3	▲ 31.5%	20.6	2.5	▲ 8.3	▲ 28.7%
長崎	7.1	8.4	4.8	▲ 2.2	▲ 31.8%	6.1	1.3	▲ 2.2	▲ 26.7%
熊本	26.5	39.6	21.9	▲ 4.7	▲ 17.5%	26.6	4.8	▲ 13.0	▲ 32.8%
大分	14.2	18.9	7.9	▲ 6.3	▲ 44.3%	12.8	4.9	▲ 6.1	▲ 32.3%
宮崎	8.3	8.1	6.7	▲ 1.6	▲ 19.2%	7.1	0.4	▲ 1.0	▲ 12.6%
鹿児島	16.2	19.3	8.4	▲ 7.8	▲ 48.1%	11.8	3.4	▲ 7.5	▲ 38.7%
沖縄	0.2	0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 63.1%	0.1	0.0	▲ 0.1	▲ 60.8%
全国	289万ト	303万ト	244万ト	▲ 45万ト	▲ 15.4%	260万ト	+ 15万ト	▲ 44万ト	▲ 14.4%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入数量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業者を行う者（年間の玄米仕入数量が4,000トン以上）である。

4 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。